

会 議 録

会 議 名		第2回かわにし創生総合戦略推進会議	
事 務 局 (担当課)		総合政策部政策創造課	
開 催 日 時		令和元年7月19日(金)	
開 催 場 所		市役所4階 庁議室	
出 席 者	委 員	伊藤 伸 委員、上村 敏之 委員、片山 優子 委員、 城南 雅一 委員、 福嶋 浩彦 委員、三坂 友章 委員、 山本 利映 委員	
	そ の 他		
	事 務 局	松木総合政策部長、船木総合政策副部長、 的場政策創造課長、野田政策創造課長補佐、富永、名塩、冨田	
傍聴の可否		可	傍聴者数 2人
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会 議 次 第		1.開会 2.議事 3.閉会	
会 議 結 課		別紙審議経過のとおり	

審議経過

発言者	発言内容等
事務局	<p>それでは、お時間になりましたので、第2回かわにし創生総合戦略推進会議を始めさせていただきます。</p> <p>皆様におかれましては、本日は御多忙にも関わらずお集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>まず初めに、前回御欠席されていた委員の方を御紹介いたします。関西学院大学 経済学部 教授 上村 敏之様でございます。</p>
上村委員	<p>上村でございます。どうぞよろしく申し上げます。</p>
事務局	<p>また、本日は浜田委員が都合により御欠席されております。</p> <p>本日の議題は「総合戦略策定行程の変更について」、「川西市の現状について」、「市民会議における検討状況」、「市民会議での各テーマへの意見」となっております。本日も活発な御議論をいただけたらと存じますので、どうぞよろしく申し上げます。</p> <p>それでは福島会長、議事の進行をよろしく申し上げます。</p>
福島会長	<p>それでは、皆さんどうも御苦労さまです。2回目を始めていきますのでよろしく申し上げます。</p> <p>まず、総合戦略作成工程に変更があったということで、事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>政策創造課の的場です。</p> <p>それでは総合戦略策定工程の変更について私のほうから御説明させていただきます。座って失礼いたします。</p> <p>まず、お手元に配付しております資料1で御説明します。</p> <p>6月10日に資料1の一番上の段に記載してある、総合戦略推進会議を開催させていただきました。</p> <p>その場で御審議いただいた中で変更のあった部分といたしましては、総合戦略推進会議でお話いただいている御意見と、あるいは市民会議でお話いただいている内容を相互に行き来するような形にしたほうが、より総合戦略を策定していく上でよいのではないかという御意見を頂戴いたしました。</p> <p>それを踏まえまして、今回第2回推進会議を7月27日の市民会議前に追加で設定させていただいた次第です。</p> <p>ですので、7月6日のかわにし市民会議の御意見の方を、今日皆様方に御報告させていただきまして、それを踏まえて推進会議からの御意見を頂戴できればと思っております。それを第3回目7月27日のかわにし市民会議の市民がお集まりの場でお伝えできればというふうに考えております。</p> <p>それを同じように繰り返すような形で、今度8月9日の推進会議で皆様にまた御審議いただいて、その内容を8月24日の第4回目市民会議でお伝えするという変更をさせていただいた次第でございます。</p> <p>それともう一つ、9月10月のところでございますが、かわにし市民会議の第5回9月14日、ここまでで一定集約、意見の取りまとめを行っていただく形で進めております。</p> <p>この9月14日の御意見を、市長をトップとしたかわにし創生本部で審議する部分と、それと、部会といいまして、課長あるいは若手職員を集めた部会で総合戦略素案の作成を行っておりますので、それを創生本部で審議してい</p>

発言者	発言内容等
	<p>くという形になりますが、第4回目の10月の推進会議で皆様にお集まりいただいたときに、市民会議の意見を一定お聞きいただきまして、ご審議いただいた内容を、やはり総合戦略は市の方で最終的には判断するという意味合いから、10月の第3回目に創生本部を開催することにいたしました。</p> <p>皆様方の御意見を創生本部で審議して、次の第5回の11月6日の推進会議につながるような形で、我々内部のほうも動いていきたいということで考えております。</p> <p>大きな変更といたしましては以上でございます。</p>
福嶋会長	<p>ありがとうございます。皆さんから何か御質問等ありましたらお願いします。</p> <p>私からですけども、第2回の市民会議、7月6日のものを今日報告していただくんですね。そうすると、第2回の市民会議から第2回の推進会議に進む矢印が一つ出ていませんが、抜けているのでしょうか。</p>
事務局	<p>申し訳ありません。7月6日から7月19日に向けての矢印が抜けておりますので、修正させていただきます。</p>
福嶋会長	<p>市民会議と推進会議のやりとりを配慮していただいたのですが、最後パブリックコメントの後のところは、かわにし市民会議は全部スルーされてしまうのでしょうか。</p>
事務局	<p>会長におっしゃっていただいておりますように、第6回の市民会議で市民の皆様はどういう形で総合戦略を報告するかも含めて、少し中で検討させていただきたいと思っております。</p> <p>1月もしくは2月の開催に向けて、報告する方向で検討しております。</p>
福嶋会長	<p>推進会議が最後答申を出しますよね。その過程では市民会議はかまないということでしょうか。</p>
事務局	<p>今会長がおっしゃっていただいているのは、1月パブコメ後の推進会議の前ということでしょうか。</p>
福嶋会長	<p>今検討されているというのは全部決まってから最後報告だけしますという内容ですよね。どの時点でしょうか。</p>
事務局	<p>事務局としては、この最終案を市で確定したものの報告を、市としてはこういう形で進めていきたいということで考えておりました。</p>
福嶋会長	<p>この流れで行くと、パブリックコメントの前に最後に提案するのは市民会議になっているんですね。パブリックコメントを12月から始めて、最後の議論は第6回の市民会議になっていますよね。そのあとパブリックコメントを受けて直すときに、市民会議は何も意見を挟まず、最後確定してから報告をやるっていうのはどうなのでしょう。</p>
事務局	<p>そこも検討させていただくということによろしいでしょうか。</p>
福嶋会長	<p>当面、パブリックコメントまではこのままのスケジュールでやらせていただいて、最後パブリックコメントを受けての詰めのところは、もう一度検討</p>

発言者	発言内容等
	<p>していただくということで、よろしいですか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
福嶋会長	<p>よろしくお願いいいたします。 それでは、3の議事に入っていきますけれども、まず、川西市の現状について、第1次総合戦略について、事務局のほうから御説明をお願いします。</p>
事務局	<p>引き続き私のほうから御説明させていただきます。 皆様にも前回お渡しさせていただきました、A4横の資料1の13ページをご覧ください。現在、計画期間中の第1次総合戦略の体系イメージが載っております。 体系イメージに沿った、具体的な市が行っている事業等を御説明させていただきます。 14ページをご覧くださいませでしょうか。 ひとつ項目といたしまして、ニュータウンというところで発展してきた川西市の特徴を活かした部分で団地再生という項目を挙げています。こちらのほうでは空き家活用、リフォーム助成ということで、子育て世帯を中心として転入や定住を推進するために、空き家を活用していただいたときに、リフォームというのはどうしても費用がかかるので、それを助成して施策を推進しています。 あるいは、空き家対策のナビゲーター養成ということで、空き家にならないためのノウハウなども、行政も含めて、専門的な部分もございまして、その部分を地域の中で、あるいは行政以外で、相談に乗れる人材の育成が必要で、地域で身近に相談できるような環境を整えたいということで、ナビゲーターの養成を進めている状況でございます。 それから右側にチラシを貼りつけておりますが、親元近居助成制度ということで、子育て等するとき、親の世帯と近居することで、子育ての支援をしてもらえる、あるいは、みんなで子育てを進められるだろうということもありまして、そういう親の世帯のところに引っ越してこられる方に対して、登記費用の助成をして、同じくニュータウンであるとか、親元に住んでもらうような施策を展開している状況でございます。 続いて、子育て・教育の部分でございます。 後ほど各テーマでの市民会議で議論いただいた内容でもお伝えさせていただくかもしれませんが、子育て・教育の主な部分で申し上げますと、相談支援の施設を整備いたしました。 場所は川西市役所から北側にキセラ川西地区というところがございまして、そこに相談施設を整備いたしました。内容としましては、妊娠あるいは出産、育児、子育て支援の部分であるとか、ニート・引きこもりあるいは不登校などの若者支援を一体的に相談が受けられるような、相談施設を整備した状況でございます。 それから認定こども園の整備ということで、施設の老朽化の部分や子育て支援の充実ということで、地域にある保育所と幼稚園を一体化した認定こども園を、市のほうで順次整備していくという状況でございます。 また、中学校の部活動に対してのICTの活用に取り組んでおります。先日報道等でも取り上げていただきましたが、中学校の部活動で顧問の方の時間的な負担であるとか、あるいは生徒の育成の部分で、専門的・技術的な部分を教えてもらえるような形にしてはどうかということでタブレットを利用した形で、活動支援を行っている状況でございます。</p>

発言者	発言内容等
福嶋会長	<p>次のページ、進んでいただけますでしょうか。</p> <p>こちらは産業の内容を記載しております。まず川西能勢口駅周辺の中心市街地の活性化ということで、駅前と、先ほど申し上げた市役所北側のキセラ川西地区というところの回遊性も含めて中心市街地の活性化に取り組んでいる状況でございます。</p> <p>それから雇用創出ということで、ベッドタウンとして発展してきた川西市は大阪神戸に通勤している方もたくさんおられるんですけども、これから働き方というのは多様化していきたくらうということもございまして、一つに女性の方が起業しやすいような環境を整えることを進めるために、起業塾ということで実施して、いろんな方々の御協力をいただきながら、起業を目指している方々の支援も行っているという状況でございます。</p> <p>続いて、地域資源・観光資源ということで、川西市の北部に日本一の里山と言われる黒川地区というところがございます。こちらの地域住民の方や地域以外の方から、支援もいただきながらこの資源を活用したまちづくりということで情報発信なども含めて進めている状況でございます。また、清和源氏発祥の地ということで、川西市をPRする内容になっております。また、その近隣に三ツ矢サイダー発祥の地ということで、平野という地区で炭酸水が発見された場所がございます。そういう部分を地域資源として活用できればと思って進めている状況でございます。</p> <p>次のページに進んでいただけますでしょうか。</p> <p>健康ということで、かわにし健幸マイレージという事業を進めております。参加費を徴収しまして市民の皆様一人ひとりが健康で幸せに暮らしていただけるように進めているものでございますが、運動をしていただいて、その部分がポイントとして溜まっていきます。その溜まったポイントが商品券や地域への応援金になります。そういう一つのツールを活用した健康の促進を進めております。また、公園に健康遊具を設置しまして、これも健康づくりの習慣化を図るという意味合いもありまして、随時事業を進めております。</p> <p>簡単な説明ではございますが、これらが主な事業でございます。皆様の方には、第1回推進会議の資料2ということで、平成30年度に取り組んだ実施状況報告書をお配りしております。</p> <p>全てはご説明できませんが、7ページ8ページをご覧いただけますでしょうか。こちらのほうでは、先ほどの体系図に沿って、施策の展開の大きなところを書いております。それに対して、実際に平成30年度に取り組んできた内容、それと、その内容を測るためのKPI・指標を設定して、さらに、これを進めているけども、まだそれぞれの担当課あるいは市として抱えている課題と今後の方向性を、書いている構成でございます。これがそれぞれの施策ごとに、まとめた部分になります。</p> <p>私が先ほど御説明した部分の内容が大きくこの実施状況報告書の中に取りまとめられているという状況でございます。</p> <p>また、参考ではございますが、第1回推進会議資料3としてお配りさせていただいた資料で、これは国の地方創生推進交付金といって、我々のほうの事業を推進していく上で一定の条件に合ったものは国から交付金をもらって事業を推進しているという状況でございます。</p> <p>一つ一つ事業について詳しく御説明できず申しわけありませんが、川西市の取り組み内容や現状については以上でございます。</p> <p>ありがとうございます。それでは委員の皆さんから御質問等ありましたら、ぜひお願いします。</p>

発言者	発言内容等
上村委員	<p>御説明ありがとうございました。実施状況報告書を御説明いただきまして、資料1の方で、恐らく、各分野で特徴のある事業があり、これをご説明いただいたと思いますが、特徴のある事業が実施状況報告書のK P Iにどこまで寄与しているのかというところが非常に懸案ではあります。そういった業績にされているのでしょうか。</p>
事務局	<p>K P Iの実績値というのは、毎年度追うようにはしていますが、ただ、正直な話、K P Iの実績値のほうの達成状況は半分にも満たないような状況になっていまして、その原因であるとか、あるいは本当にこの事業を展開していくときのK P Iとして、これが本当に設定する指標として、望ましかったのかというところは次の戦略に活かしていかないといけないなという反省がございます。</p>
上村委員	<p>私は市の行財政改革審議会の会長でもありまして、事務事業レベルでこれから検証することになりますが、事務事業を見ていると、なかなかアウトカム指標が設定されていない事業があります。こちらのK P I、恐らくですけども、事業の成果と指標の成果はうまくリンクしているのか非常に重要な部分なので、そういうところを今後見ていく必要があるかなと思います。</p>
福嶋会長	<p>今、御質問のリンクをどうしているのかということですが、その辺ちょっとどう、お答えなされたか私はあんまりちょっとよくわからなかったのですが。</p>
事務局	<p>事業の方の、指標で申し上げますと、実際に事業をした部分のアウトプット部分から、本当は目標としてそのアウトカムがツリー状に繋がっているのが理想だと我々は認識していますが、ただ実際には、これだけ事業をすとか、参加人数を伸ばそうとか、そういう指標に留まっているところがあります。それが最終的にはアウトカムのところに繋がっていないという現状が正直ございまして、そこを庁内でも指標の最終的なアウトカムまでのツリーの部分をできるだけ繋げていこうとしていますが、今現在、綺麗な状況で繋がっているかという、正直そこまでいっていないという状況になっています。</p>
福嶋会長	<p>どうやって繋げるということでしょうか。</p>
事務局	<p>例えばですね、土木の関係の事業で、最終的には住みやすい街、生活しやすい街ということが最終的な目標のアウトカムであったとしたときに、道路の部分でいうと、こういう事業を進めていこうと。安全の関係でいうと、交通安全の部分では、交通安全の講習はやっているけども、それで結局安全な街になったか、なってないかと測る指標はありません。ですから、やった事業をしたということでは、もちろん頑張っって成果を上げてきているんですけども、最終目標までに、本当にそれが繋がるのかというところが、まだ、我々のほうでは整理できていません。本当はそこまで繋げていきたいというのが我々の思いです。</p>
福嶋会長	<p>すみません。私が頭悪いんですかね。ちょっと言われていることがわからないですね。事業のアウトカムがちゃんとしてないから、しないといけないというのはわかります。 そういうことをおっしゃっていると思うんですが、それと、K P Iとどう</p>

発言者	発言内容等
山本委員	<p>つなげるのかっていう手法は、説明されていないと思う。</p> <p>アウトカムというのは、成果ってという意味ですか。 アウトプットとアウトカムって言葉が使われていたと思うのですが、例えば、さっきの安全講習、安全なまちづくりっていうところでいくと、安全講習を何回行うかというところがアウトプットで、安全なまちになったってのがアウトカムっていうことでしょうか。</p>
事務局	<p>そうですね。最終的には我々目標としては、市民の方々がどういうふうにかえられているのか、やはり市民の生活に結び付けていけないといけないという部分がございますので、そういう意味合いで市民の方の最終的な目標の部分で数値化したものがアウトカムですね。あるいは行政側でやっている目標の部分アウトプットということですよ。</p>
山本委員	<p>アウトカムで成果として現れるものに使う指標としてK P Iというのを使っているということですか。そこをどう結び付けるかということですか。</p>
事務局	<p>K P Iというのが、例えば実施状況報告書の7ページ8ページ目というところ、生産年齢人口の比率ということで、これも実際にはアウトカムの指標を使ったり、アウトプットの指標を使ったりしているものがございます。</p>
伊藤副会長	<p>アウトカムは成果目標で、アウトプットは活動指標ですので、これ本来は全く違うものになると思います。</p> <p>先ほどおっしゃっていた交通安全講習会を開いた回数は活動実績や活動指標になります。講習会を何回か開いたその先には何があるかというその目標が成果目標であり、アウトカムということになります。この指標とK P Iは本来は少し違う意味であり、K P IはKey Performance Indicatorの略で、主要な業績評価指標と言われております。5年前に行政は政府からK P Iを示すよう言われたものの、一定の目安として、施策という事業の一つ上のレベル、先ほどの交通安全啓発事業などを幾つか束ねた施策を総合戦略に掲げていて、その施策での成果目標としてK P Iを設定されていると思います。K P Iのレベルがそうなっていると思います。</p> <p>先ほどから出ている、上村さんが事務事業評価をやる中で、そこでの成果目標、本来であれば、施策の中にある個々の事業の成果目標を達成できていければ、その上位にある施策が実現できるような、体系になっていなきゃいけないはずですよ。しかし、先ほどのお話では、川西市としては子育てをこうしたいという方向性があるって、その方向性の中で幾つか事業をやっているけれども、この事業の目標が達成したら子育てをどうしたらよいかという施策が実現できるかということ、そこまでちゃんと結びついていないというのが、先ほどの的場さんの問題意識なのだと思います。</p> <p>ですので、本来は事業の成果を決めてから施策をどうするのかを決めるのではなく、企業でも当たり前かと思いますが、先に、ビジョンと戦略があって、それに基づいてどんなプロジェクトや事業をやっていくかと考えることになるので、本来はこの実績報告書に出ているK P I、いわゆる施策の成果目標が先にしっかりと設定をされていることが前提にあって、それに基づいて事業をやっているというのが理想ではあるが、そうはなっていないので、その見直しをどうするかというのが福嶋さんのお話していたところだと思うのですが、全国的にもなかなかできていないと感じています。</p> <p>どうやって施策の目標、本当なら、今年度総合戦略を変えるタイミングで、</p>

発言者	発言内容等
事務局	<p>施策の目標が適切なのかどうかということをもう1回見直しをして、その上で事業がこういうものがあるんだという流れが1番理想的ではないかなと思います。</p> <p>副会長がおっしゃっていただいたとおりです。 本当は施策の大きな目標のK P Iから、事業につなげないといけないのですが、下のほうの事業の指標の部分からスタートしているところがあって、結局その施策のK P Iの大きな目標と、やはり繋がりが難しいのが正直ございます。</p>
福嶋会長	<p>今のところに関して他の方から何かありますでしょうか。</p>
上村委員	<p>繋げるのは非常に難しいと思います。相関関係や因果関係が実はよくわからないということはよくあります。 なので、例えばよくなっているけれど、実は全然違う要因でよくなっているということがありますので、ただそういう意味では、本当に繋がっているかどうかはやってみないとわからないと思います。ただ過去を振り返ってみて、ここはどうしても寄与度が非常に小さく、もしくは、全く逆の動きをしているものがあるとすれば、それは事業が成り立っていないかもしれない。そういうものは選んでいく必要がある。 相関関係がありそうなものは置いといてもいいと思いますが、逆の方向を向いているものについては、事業とするのに有効性はないかもしれないけれどもそこはチェックしていく必要があると、私個人的には思います。</p>
福嶋会長	<p>他の委員の皆さんはどうでしょうか。 K P Iを設定して、そこから事業体系をつくっていくこと自体が完全に間違っているのではないかと私は思っています。地方自治というのは市民の生活から出発するもので、K P Iの数字から出発するものではありません。 だからこういうことをやっても、私は意味がないのではと思います。 例えば7ページで言えば、親元近居助成制度、これが何件助成したかという数字は出てきます。アウトプットはそれでいいかもしれませんが、アウトカムがいるんですね。本当にこの助成制度があったから、親と近居しようという人がどのぐらいいたかが大切なわけですね。別にこの制度があってもなくても、親と一緒に、親の近くに住んだ。だけこの制度があって、お金もらえたからラッキーで終わっている件数がいっぱいあったって、それは何も政策的な効果は生んでいません。それは確かめであるのかなってというのが一つあります。それが生産年齢人口比率に影響しているのかということをはたしてどう確かめるのが、そもそも無理ではないかと思うのですが、貢献してなければこの事業の意味がないということでしょうかってことです。生産年齢比率に貢献していなくて、この助成制度があったから、親と近居するという人が増えれば、それは市民の生活から考えれば有効な政策になります。K P Iに貢献している・していないとか、K P Iから物事を考えるというのは、地方自治が逆立ちしてしまうのではと思います。いかがでしょうか。全部そういう形でできているので、ひっくり返す話にはなってしまいますが、どうなんでしょうか。</p>
事務局	<p>会長がおっしゃっていただいた親元近居助成制度は、本当にそれがあったから親元に来られたのかという点については、親元に来ることが決まっています、市役所に来たらその制度があることを知って利用された方もいると思</p>

発言者	発言内容等
福嶋会長	<p>ますので、事業の再検証において実際はどうかというのを見ていく必要があると考えています。施策のKPIの設定のそもそもの部分は、会長がおっしゃっていただいているとおりなので、指標の設定も含めて今回の総合戦略では検討していく必要があると事務局は考えています。</p> <p>これからの議論ですが、第2次総合戦略ではKPIをやめようということも推進会議として答申するってということもあるということですね。</p>
伊藤副会長	<p>4年前、総合戦略の策定を構想日本がやるときに、同じ議論をしました。抽象的なことで、施策の成果目標はそもそも作りにくいから、それよりも、事業目標をしっかりと設定しましょうという話をしていました。</p> <p>少ししんどいなと思っているのは、総合戦略は政府が地方創生の交付金を出すための条件となっていて、その一つの要件としてKPIを設定してくださいと言って、どの自治体もそのまま作ってしまっていました。国が悪いのとはいうところもあるんですが、そこはやりながら検討したいと思います。</p>
福嶋会長	<p>国に従って、声を出さない自治体のほうがもっと悪いわけです。</p>
城南委員	<p>うちの会社の話ですが、目標設定ってやっているんです。</p> <p>その目標設定はあるんですけども、当然定量的に把握できるものもあれば、定性的なものもあります。定量的なものは例えば会議を何回するとか、どれだけ収益を上げるかというもので、できたかできなかったかは一目瞭然です。定性的なものとしては、コミュニケーション能力を高めることや、風通しの良い職場づくりをするとか。定性的な目標を立てたときに、部下はできましたと言うんです。</p> <p>僕は、それはできたかできてないかを何で判断するのかと問いかけるんですね。要は2月から3月に次年度の目標設定をしますが、そのときに、何をもちって評価するかのイメージ合わせをすごく丁寧にします。そこがグリップできていたら、できましたとか、できませんでしたということのフェーズが合うんです。</p> <p>定性的な項目の時には、同じことが起こりますが、なるべくそれを表現できるような数値を上げて、その数字でもって評価できないかということをもっと最初にやる。全くいいものがなかったら、数値化せず定性的に行ってしまうんです。</p> <p>今のお話を聞いていたら、アウトカムとして施策に効いてくる事業というのが、ちゃんと選ばれているかどうかというところにまず問題があって、その事業が定性的なのか定量的なのかによって、KPIを選定できたり、ちょっとずれたものを、仮に数値として上げることを試しながらどう進めていくか。そういうふうな使い方になるのかなっていうふうに聞いていて思いました。</p>
福嶋会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今のお話でいくと、親元近居助成制度で、この制度があったから親の近くに来ましたという人がどのぐらいいるかというのは、定量的ということですよ。生産年齢人口比率も当然定量ですよ。だから、さっきの例だと、わりと定量的のものを議論していて、ただ、ここがどう結びつくかは見えませんねということが一つと、企業の目標設定ってというのは、ある程度大きな目標を設定して、その達成のためになるのかという立て方をしているんですが、</p>

発言者	発言内容等
	<p>地方自治体の場合は、そういうKPIで大きな目標を設定してそのための事業をやるということが、果たして自治体のやり方として本当にいいですか？というの、もう一つの問題です。市民の生活の中から、何をやっていくの、かかっていうのを積み上げていく必要があって、生産年齢人口の比率をあげるとか、かかっていうのが自治体の目標で、そのための事業をやって、そのための事業に市民がいろいろ関わっていくって話、本当に自治体の姿なのかということも一つありますね。</p> <p>他にはいかがでしょうか。</p>
山本委員	<p>交付金の実施状況報告について、平成30年の実績値が入っていないものがあります。どういうことでしょうか。</p>
事務局	<p>これは、前回の推進会議時点で実績値として出ていなかったものが一部ございます。それから、数年間に一度しか結果が出ないものもございます。そういったものをKPIにしているような部分もございまして、その部分は課題となっております。</p>
福嶋会長	<p>他にはよろしいでしょうか。</p> <p>最初の時にお話ししましたが、この資料1でいえば、13ページの女性が働きやすい環境づくりを目指したいというのがあるのですが、基本目標は若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえるというところで、女性が働きやすい環境づくりというだけでは、女性の働く環境というのはなかなか難しいから、そうだよなっていうふうに思いますが、実はこの中身を見ると、「子育て中の女性が仕事と育児の両立ができる環境づくりを進めます」、「女性の新たなライフスタイルの確立を支援します」というのは、子育て中の女性が仕事と育児の両立ができるというの、子育ては女性がやるものだという大前提に立って、女性の両立の環境づくりを進めるって言うわけですよ。こんなこと本当に言うのって私は根本的に思います。それから、「女性の新たなライフスタイルの確立」というのが何を示しているのかわかりませんが、もしかしたら、子育てのときは、女性が、子育てに専念をして子育てが一区切り付いたら仕事に復帰するというライフスタイル、女性のライフスタイルを確立しようという中身だとすれば、これも、むちゃくちゃ問題があるのではないかと思います。そのあたりは、どのような認識をされているのでしょうか。</p>
事務局	<p>以前も御意見いただきまして、この表現の部分については課題でございます。我々が総合戦略で、例えば「働く」という部分で、基本目標4には就労支援ということで、女性だけに関わらず、行っている部分はあるんですけども、全国的な部分、あるいは川西市でも、やはり女性が働きやすいという部分を、進めた方がということで、ここに記載したような状況ですが、この内容は決めつけなのではないのかということについては、今回の御指摘のとおりだと思います。就労の部分を含めて今回は考えていきたいと思っております。</p>
福嶋会長	<p>1次戦略の実績として、そのあたりはどうなんでしょうか。実際にやったことはどんなことがありますか。</p>
事務局	<p>実施状況報告書で申し上げますと、23ページになります。起業塾も女性の起業ということでやっておりますが、23ページの平成30年度の取り組みの内容の部分で、在宅ワークの基本の部分の講座を行うなどの事業を展開しまし</p>

発言者	発言内容等
	<p>た。女性の起業塾についても、3年間かけてやっていますが、1年目で一定数の参加者がおられて、起業に移られた方あるいは引き続きそのセミナーに参加されて、起業に向けて動いておられる方もいるというような実態でございます。</p>
福嶋会長	<p>例えば「女性の新たなライフスタイル」で「女性の生き方や働き方を体系的に学ぶ機会を提供するカレッジ」とありますが、これはやっておられるんでしょうか。</p>
事務局	<p>はい、平成30年度は女性の新たなライフスタイルの確立を支援するため、男女共同参画カレッジを開催しまして、参加者数が110人という結果でございます。</p>
福嶋会長	<p>女性の生き方働き方のカレッジをやって男性の生き方働き方のカレッジはやってない。それで男女共同参画というのは、ブラックユーモアのような気がしますけれども、そういう実績だっていることですね、とりあえずは。</p>
山本委員	<p>ちょうど今週の月曜日、産業ビジョンの部会のほうにも参加させていただきまして、そこでも話が出ました。例えば、市内で起業したい方がどれくらいいるかとか、あと起業しようと思った際に、どういうことが問題になるかとか、そういうことを産業ビジョンのほうで、ちょっと拾い上げたいとなった場合に、声が集まるのが、やはり女性起業塾しかやってないので、まずは女性起業塾のほうにアンケートをとりますという話でした。</p> <p>そうすると、女性だけに聞くのかということになりまして、男性からどういうふうに意見を吸い上げるかっていうと、なかなかそういう場がないと。</p> <p>そこでも実際に話が出たのが、女性だけに聞くと結局、意見が偏るという話だったんです。結局は、男性でも起業したい方がいて、そこに悩みがあったりすると思うんですけども、実際女性起業塾しかないので、数字として取れるのがそこだけで、そこから意見を吸い上げて計画になると、また偏っていくので悪循環だなと感じました。女性起業塾の事務局もさせていただいたことがあって、男性が起業するときとはまた違った悩みもあるので、それはそれでいいと思いますが、やはり女性だけでなく男性にも目を向けていくというのは、すごく大事だと感じました。</p>
福嶋会長	<p>女性と男性と一緒に起業するときは入れるんですか。入れないんでしょうかね。まったくの女性だけで起業しなきゃいけないというルールではないと思うんですがね。</p>
山本委員	<p>しかも今はLGBTの問題もあるので、性別で区切るということも難しくなっていると思います。</p>
上村委員	<p>実は私、今朝この事業の成果表を私が参加している審議会の資料で見たのですが、同じような違和感を持ちました。性別によって区別がつかない状況もありますので、これについてはいちから見直したほうがいいのではと、同じ印象を持ちました。</p>
福嶋会長	<p>ありがとうございました。それではいいでしょうか。少し押しておりますので、川西市の現状については、終わりたいと思います。</p> <p>次に、市民会議における検討状況について事務局からご説明いただきま</p>

発言者	発言内容等
事務局	<p>す。</p> <p>それではご説明させていただきます。</p> <p>市民会議は、第1回を6月15日、第2回を7月6日に開催しました。第1回は94名、第2回は91名と、多くの市民の方に御参加いただきました。</p> <p>第2回目の班ごとの会議の内容につきましては、後ほど各班の担当者よりご報告させていただきます。</p> <p>なお、資料としては、班ごとの会議での説明や発言内容をまとめた議事メモ、それから、改善提案シートまとめという資料です。改善提案シートの様式もお配りさせていただきました。改善提案シートというのは、市民会議での議論の終了後に、市民の方が考えている課題や、それに対して個人、地域、行政がどのように取り組んでいったらいいかという提案を記入していただくものです。それを班ごとにまとめたものが改善シートまとめという資料になります。今回お配りしたのは、第2回目の市民会議の改善提案シートとりまとめで、7月6日の議論終了後、記入されたものです。この中には班の議論に出てきていないものも含まれていますが、これらを参考に次回の議論に、活用していく形となります。</p> <p>それでは各班より、議論の内容について御説明させていただきます。</p>
事務局	<p>1班の政策創造課の野田です。よろしくお願います。</p> <p>1班では、産業の活性化をテーマに話をしています。第2回の市民会議では最初に、今後産業の活性化を考えていくに当たり、市の現状を参加者の共通認識にするため、市の交通政策担当及び産業担当から説明を行いました。そのあと、参加者がそれぞれ感じていることなどを発表しました。</p> <p>まず、交通政策担当からは、本市は、自宅からの徒歩圏内に駅またはバス停がある人の割合が77%であり、非常に利便性の高い地域であるという説明がありました。しかし、高齢化等によって、近いはずの最寄り駅までの移動が問題になっている。これをラストワンマイル問題と言いますが、これが川西市でも問題になってきているという説明がありました。</p> <p>また、公共交通については、主な利用者層である通勤、通学者の減によって減少傾向にあるということです。</p> <p>川西市に限らず、一般的には、公共交通機関の利用者数が減れば、事業者の収入減少につながりますので、それが減便やサービスの低下を招き、結果更に利用者が減っていくという負のスパイラルに陥ることが多いという説明がありました。それを防ぐ手立てを考えていく必要があるということです。これは鉄道よりもバスにその傾向が出やすいようで、当市においてもバスの一部路線で赤字に対する保障をしています。</p> <p>以上のような説明に対し、市民からはラストワンマイル問題に関して、コミュニティバスを走らせたらどうかということや、そこからコミュニティビジネスという言葉についても言及がありました。市内にはJR、阪急電鉄、能勢電鉄という公共交通網がありますが、公共交通利便性について産業に活かすべきではないかといった意見が出ました。</p> <p>次に、産業担当より、市内の産業の現状として、第三次産業つまりサービス業が、総生産の9割で大半を占めているという説明がありました。中でも不動産業、病院福祉関係、こちらの業種も、生産量が多いということです。議事録に掲載されていませんが、農業、農家の数については、平成27年度時点では397で、平成7年と比べますと、20年で約3割減になっているとの説明がありました。</p> <p>それについて市民からは、市外から若い人を呼び込むことが必要であると</p>

発言者	発言内容等
事務局	<p>意見が出ておりまして、市内には空き家がふえていますので、空き家をIT企業に使ってもらうという案や、あるいは、人の移動によって新しい産業が生まれるのではないかという意見がありました。また、参加者からですね、本当は市内で仕事をしたいが、市内求人がなく働ける場所が欲しいという意見もありました。</p> <p>続いて改善提案シートをご覧ください。地域産業という箇所がありますが、この中ではネットでの起業を希望する方に対し、オフィスや住居のサポート、そういったところを行政で行ったらどうかという提案がありました。</p> <p>また、企業誘致について、大きな土地はないかもしれないが、小さい土地は川西市にいっぱいあるので、IT企業など大きな土地を必要としない企業を誘致した方がいいという意見もありました。</p> <p>そのほか、テレワーク、クラウドファンディング、コミュニティビジネスといった、産業系のキーワードが出ています。かわいいといったイメージ戦略や情報発信のあり方についても意見が出されています。</p> <p>この中にはですね、10年後ネットでの商取引が主流になるのではないかという未来を見据えた意見も出されました。</p> <p>情報以下につきましてはですね。今回の第2回市民会議では、自由にまちへの思いを話していただいたところでありまして、産業に限らず幅広い分野についての意見が出ています。直接的に産業に、分類できないものですが、中にはこれからの産業、あるいはこの他のテーマの議論について結びついていくものもあるのではないかと思いますので、またご覧いただければと思います。以上が1班の議論の内容です。</p> <p>それでは2班のご説明をさせていただきます。2班は子育て・教育の充実というテーマです。議事メモをまずご説明させていただきます。</p> <p>まだ2回目ですので、大きな部分でしか議論できていない部分はありますが、概要としてはまず子育て支援、それと学校教育、それと、本市は中学校給食がまだということで、その部分が市民会議の1回目でも出ましたので、その3つをテーマとして、市民会議第2回目を行いました。</p> <p>まず、子育て支援策ということで、担当より説明がありました。ここでは子ども・子育て計画の様々な事業について説明がありましたので、そこは省略させていただきますが、皆様方にお手元にお配りした、A3横の「ひょうご北摂の子育て世帯にうれしい支援」という、イラスト入り資料を用いて他市との比較であるとか、川西市の特徴を担当副部長より説明しました。</p> <p>それぞれの自治体は様々な事業をしていますが、その中でも、川西市として最近独自の支援策で行ったのは、もう一つ、資料の下にあったかと思うんですが、広報誌を抜粋した部分でございます。キセラ川西地区内に、子ども・若者ステーションという場所を設置しました。そこで妊娠や出産、子育て期の相談、あるいは、ひきこもりの方の相談であるとか、青少年育成団体の活動支援なども一体的に行う施設です。</p> <p>左上のほうに、実際にこれはあくまでも主な事業ですけども、いろんな職種の方がおられまして、一時預かりやプレイルーム、産後ケアなどをやっています。それから、39歳までの方を対象とした若者相談窓口などを設けたのが、川西市としては特色ある取り組みだという説明がありました。</p> <p>ここの意見としましては、まだまだこれから市民の方から意見が出てくると思いますが、次の3ページの参加者からの意見として、子育て中で子どもさんと一緒に参加いただいている方が、実際に行政の支援の対象にならなくても、子育ては実際大変なので、やはり相談ができたり、あるいは母親同士が集まれる場で共有できるようなところがあるといいですね、という御意見</p>

発言者	発言内容等
事務局	<p>をいただきました。</p> <p>次に2つ目は学校教育でございます。川西の教育という資料で、我々川西市の教育を説明しました。たとえば生きる力を育む体験活動ということで、自然、あるいは里山を活用した体験学習を行っているという説明がありました。それから、全国学力学習状況調査結果報告というような内容で説明いただきました。それに対して市民の皆様からは、体験学習の件も出ましたが、いじめについて川西市ではどのような対応をしているのか、子どもが就学するにあたって心配だという御意見をいただきました。やはり個人情報があるので、なかなかオープンにできないのはわかるけども、こういうことがあったので、こう改善しましたよ、というのがオープンになれば、より親が安心して就学させられるんじゃないかという御意見がございました。</p> <p>それと、次に学習・学力の部分です。学校での、これまで川西市で生活されていた方からは、「川西市の給食、小学校は自校調理でしたが、中学校になるとなくなってしまった。また、自然学習と言われているが、実際には県外に行っているし、なかなか川西市らしい教育は難しいですね」とご意見いただきました。そこで、いろんな分野ででてきたのが、川西市としての特色ってというのは、教育にどう生かしていくかというのが大事ですね、という御意見をいただきました。</p> <p>そういった中で、子育て世帯の流入を促進するためには、学力だけではありませんが、学力の部分もPRすることが大事ではないかというご提案をいただきました。</p> <p>それから、中学校給食でございます。中学校給食のほう、今の近隣市の現状ということで、A4縦の阪神間中学校給食の状況をまとめている資料をお配りさせていただきました。今現在、川西市では中学校給食をやっていませんが、2022年9月を目途に進めているという御説明をしました。なぜ、なかなか着手できなかったのか、という質問が市民の方からありました。もちろん中学校給食の議論はしてありましたが、学校施設の耐震化であるとか、東日本大震災の関係の体育館の天井落下、あるいは空調設備を平成29年に全ての学校・幼稚園で行いました。そういう部分で費用が欠ける部分があり今の現状となっていること、整備は2022年度を目途に行っているという説明をしていただき、このあたりもよくわかりましたと参加者の方からお声をいただきました。こういうのを、できるだけ市民の方に説明できるような、できるだけわかるようにすれば、市民の方も御理解いただけるのではないかと御意見もいただきました。</p> <p>改善提案資料につきましては、今言った内容、方法に皆様方から、課題やこういった改善ができるかといった提案を頂いていますので、そこは省略させていただきます。子育て環境の充実につきましては以上でございます。</p> <p>3班の住宅都市としての魅力向上については、政策創造課の名塩からご説明させていただきます。</p> <p>まず空き家対策について、それから1班とも共通しますが、公共交通機関に関して担当副部長よりご説明後、市民の方に議論していただきました。</p> <p>空き家対策については、担当部署から川西市の現状とこれからの取り組みについて説明がありました。川西市の空き家率は11.3%となっています。この11.3%とは、賃貸物件、売却用物件、別荘として使われている住宅も含まれる数字です。対策が必要なのはその他の住宅ですが、川西市では約8%を占めています。</p> <p>昨年度の空き家に関する苦情で1番多かったのが、建物破損が98件だったと説明がありました。市の方向性としては、今現在、倒壊の恐れがある空き</p>

発言者	発言内容等
事務局	<p>家が無いことから、空き家を作らない取り組みをこれから行っていくということを伝えていただきました。取り組みに関しては、A3でお配りした「空き家対策に係る取り組み」という資料を用いて説明しています。</p> <p>特に力を入れて説明したのが、「人材育成」「発掘」という部分ですが、空き家対策ナビゲーター養成講座を開いていることです。こちらでは、空き家対策に関する、相続や登記の話を一般の方に学んでもらい、地域で空き家対策に関して困ったことがあれば、その方に、相談できるという状況を地域で作っていくことに力を入れております。</p> <p>こういった話の中で、市民の方から出てきた声としては、民間よりも市の方で空き家バンクなどを作って市に相談できるような状況を作れるのかどうかといった話が主になっておりました。</p> <p>空き家バンクの運用の方向や、空き家がどこにあるかといった情報収集も、既存の社会インフラ、水道の検針などの際に空き家を把握するなどの手法が良いのではないかという意見が参加者から出ていました。</p> <p>次に公共交通機関の説明ですが、こちらは1班での担当者からの説明と重なるものがありますので省略させていただきます。</p> <p>公共交通機関について参加者からの意見としては、川西市には公共交通機関として鉄道や路線バス、タクシーがあるが、運賃が高いといった意見がありました。</p> <p>議論の後に記入いただいた改善提案シートでは、やはり空き家バンクに関する意見が多く出ていました。住宅都市としての魅力向上の分野では、遊具が充実した公園が少ないという意見が出ています。行政の役割としては、様々遊具の設置を行うべきという意見が出ていました。</p> <p>3班の住宅都市としての魅力向上に関する説明は以上となります。</p> <p>政策創造課の多田と申します。続きまして4班の「文化・歴史の活かし方」の説明をさせていただきます。</p> <p>4班では、第1回の市民会議の振り返りを行いました。第1回市民会議では自己紹介とあわせて、テーマについて一言ずつ意見を述べていただきました。歴史のことをよく知っている方が少ない現状がありましたので、第2回については、テーマが歴史の活かし方ということですので、市の中にどのような文化があるのか、どのようにそれを活用しているかを共有した上で議論を進めていこうということになりました。そこで、市内の文化財についてと、市内の文化歴史にかかわるイベントについて、所管部署より説明をしていただきました。</p> <p>まず始めに、市内の文化財について、担当部局より説明がありました。説明の内容としましては、市内に国県市から指定登録されている文化財が101点あることや、今後重要・貴重な文化財を保全するとともに、多くの方に親しまれるように、さらに活用していきたいという説明がありました。その説明を受けて参加者が議論を進めていきました。議論の中では、多田銀銅山のPRのことや、多田神社・源氏について、さらには三ツ矢サイダーを活用したPRといった、様々な意見が出てきました。主な意見としては、まず、昨年に新名神高速道路という新しい高速道路が開通しましたが、それを期に、各施設への案内版が設置されました。それが小さ過ぎるのではないかという意見や、文化財とか歴史の背景や伝説が、市内にあるのでそれを市のPRにも活用してはどうかという意見が出ておりました。また、文化財・歴史はいいものが多いが、人を呼ぶ術がないのが市の課題ではないかという意見が出ておりました。</p> <p>続きまして、川西市の住みやすさについてです。4班のテーマは「文化・</p>

発言者	発言内容等
	<p>歴史の活かし方」ですが、そういったものを活用していくにあたり、まずは、市の現状を生活している市民の目線で共有した上で話していこうということになり、「住みやすさ」を題材に指定して議論を進めていきました。</p> <p>住みやすい・住みにくいという部分で様々な意見が出ていましたが、その中でも市の南北で交通や買い物利便性に差があるという意見がありました。これを文化とどう絡めていくかというのが、ポイントになるということでもとめています。</p> <p>続きまして、川西市の文化・歴史に関するイベントについて、内容や来場者数について市の担当部局より説明がありました。主に源氏まつりを中心に議論が進んでいましたが、参加者からは、南部・中部・北部、それぞれが住んでいる地域の行事しか行かないので、市全体のイベントとは言っているが、地域のお祭りになっているのではないかという意見がありました。その意見に対しては、市としても色々取り組んでいるが、成果が出ていないという回答でした。また、参加者の方からは加茂遺跡のPR等もやっていきたいという意見が出ておりました。</p> <p>そういった意見を踏まえまして、改善提案シートを作成いただきましたが、主な意見としては文化財が点在しているので、それをめぐるループバスを走らせるのはどうかといった提案や、地域の祭りになっている状況を勘察し、地域ごとの人数を割り当てて参加するのはどうかといった提案、企業とのタイアップを考えたかどうかといった意見がありました。</p> <p>最後に総括として、文化財のことを知ってはいるが活用できていないという現状がありましたので、今後はそれをどう活用していくのかといった部分を議論していくことになりました、自分や自分の周囲の人が、文化財にどうやったら関心を持つかといった点でも議論をしていく予定です。4班の説明は以上です。</p>
事務局	<p>5班担当の富永と申します。5班は「生きがいと地域交流の促進」というテーマです。</p> <p>まず前回の市民会議の振り返りをしました。前回は、自己紹介が中心となっており、その中で地域交流とは何かという疑問が参加者の中でありました。そのため、第2回目の冒頭、コーディネーターより参加者の皆さんに対して、「議論を進めるに当たっては、まず、川西市のことを知ってもらいたい。川西市の状況や、他市の取り組みの説明を聞いて勉強した上で、議論を進めたい」という話がありました。</p> <p>市の説明として、まず始めに「各計画における生きがいと地域交流の促進について」ということで、総合政策部の担当より御説明させていただきました。総合計画や、総合戦略、個々の個別計画において、生きがいづくりや、地域交流の促進というのは、様々な計画や、事業に関連して位置づけられています。そういったものに基づいて、市としても取り組んでいることを御説明しました。</p> <p>続いて、川西市の生きがいや地域交流の促進に関する取り組みの紹介ということで、いくつか例をご紹介します。かわにし活動紹介一覧表という、資料があり、市内で活動する209の団体の団体名や活動内容、連絡先等が記載されている資料があることを説明させていただきました。参加者の方からは、こんなにたくさんの活動団体があることを知らなかったという意見や、連絡先が載っていても、興味がある活動に参加したり、連絡を入れる人は少ないのではないかと、という意見がたくさん出ておりました。</p> <p>次に、かわにしコミュニティ活動事例集という資料を用いて、コミュニティの活動があることを御紹介させていただきました。川西市では、コミュニ</p>

発言者	発言内容等
福嶋会長	<p>ティ単位での活動が活発であることや、そのコミュニティの一部の財源は市からの交付金だが、一括交付金として交付しているため、各地域が、実情に応じて活用できるような仕組みになっていることを御説明させていただきました。参加者の中にはコミュニティ活動もたくさんあるのは知らなかったという方もおられました。また、自治会に加入するのはしんどいが、こういった枠組みでの活動であれば参加してみたいという声も、聞こえてきました。</p> <p>続いて、子ども食堂について、市内の個人やNPO団体が取り組んでいることを説明させていただきました。また、赤ちゃん先生プロジェクトという、赤ちゃんと保護者の方が、市内の小中学校を訪問し、地域の小中学校の学生・生徒と交流する取り組みも御紹介させていただきました。さらに、キセラ川西地区で公園の設計から運営のあり方までを、市民が参加するワークショップで取り組んできたことも御紹介させていただきました。</p> <p>他市の事例としては、大阪府池田市の関関COLORSという団体で、大学生がイベント事業や、子ども預かり事業といった、地域活動をサポートしている取組みや、東京都世田谷区のせたがやすまほ研究会という、スマホやタブレットを活用する学びの場を高齢者が提供し、それを高齢者が学びに来ることで、地域活動交流のきっかけがあった事例というのを紹介させていただきました。</p> <p>また、コーディネーターの所属である豊田市のコミュニティスクールや子ども食堂の取り組みも動画で学びました。コミュニティスクールとは、学校、家庭、地域が知恵を出し合って学校運営に反映させていくことで、子どもの成長を支えて、地域とともにある学校づくりを進める取り組みのことです。川西市でも、今年度より、久代幼稚園、清和台南小学校、多田中学校、東谷中学校で取り組んでいることもお伝えしました。</p> <p>これらの事例を紹介した後、参加者一人一人に意見や感想をいただきました。「様々な活動があることを知らなかった。こういった一覧や事例集を作っても、皆が情報を取りやすい状況、参加した人が欲しい情報が取れる状況でなければ、意味がないので、市や団体はもっと情報発信のあり方や、発信の仕方考えた方がいいのではないか」という御意見がありました。また、生きがいや地域交流は、高齢者や子育て世帯といった様々なステージがあるため、テーマを分けて絞って考えていきたいという話が出ていました。また、自身も、ボランティアや交流会へ参加してみたいが、なかなかできないという方が多く、参加したい方が参加しやすくなる仕組みや、環境を考えていきたいという声もありました。</p> <p>改善提案シートでも同じような意見が多くありました。人との繋がりや地域交流が少ないということで、個人としては、近所の方と関わったり、活動に参加するのはもちろんだが、行政としては、やはり情報発信などにしっかり取り組んだりとか、そういう場を設けていくことが必要ではないかということで御意見がありました。</p> <p>最後に総括として、生きがいというのは個人の感性に関わる部分が非常に大きいですが、この場で考えるのは、地域活動というものを、生きがいを持ってやれるような社会づくりっていうのを考えていけたらいいですね、ということで、コーディネーターからお話があり、第2回目は終了しました。次回はもう少しテーマや内容を絞って議論が進めたいと考えています。以上です。</p> <p>どうもありがとうございました。5つの班について報告をもらいましたけども、今から順番にといいますか、まとめて気づいたところ、御意見やご質問を出していただければと思います。どうでしょうか。</p>

発言者	発言内容等
三坂委員	<p>ではまず1班の産業活性化についての中で農業従事者が減少するという話がありました。また、大きな土地がないという話もありました。川西市において生産緑地というのが約77ヘクタールあります。これが、2022年度で、あと3年後ですけども、どうなるかによって、耕作放棄地ができるとかいろんな問題が生じると思います。そのあたりについて、どのようにお考えになるのか教えていただけたらと思います。どういう対策を取っていくのかなど。これは空き家問題から、耕作放棄地の問題から、まちづくりに関して、非常に重要な問題だと考えておりますが、全く取り上げられてないのですが、どうでしょうか。</p>
福嶋会長	<p>まず、市民会議の中で、そういうことについて議論や提案が何かあったら教えてほしいです。</p>
事務局	<p>1班の議論の中で生産緑地に係る議論は出ませんでした。</p>
三坂委員	<p>農業に関してもやっぱり後継者がいないと、当然農業が継続できないと思うので、そのあたりもまた今度どこかのタイミングで検討していただきたいと思います。</p>
福嶋会長	<p>今日の流れで(3)で市民会議各テーマへの意見ということで、議論されていないことで、私たちとして提案したいこととか、こういうことをもっと話してほしいというのは、(3)のところでもう一度話をさせていただきます。</p>
上村委員	<p>今日のこの場は、次の市民会議に対するボールを投げるためにすることなので、それを踏まえて話を聞いていると、行政側のアピール不足だということや、PRもしなきゃいけないというのが結構出てきますが、せっかく市民会議で市民の皆さんおられますので、じゃあどうしたら一番効果的なのかっていうところをぜひ突っ込んで聞いていただきたいなと思っています。非常によく出てくるアイデアですが、具体策までなかなか議論されていないのではという気がしました。前回、私は第2回目の市民会議を傍聴に行きました。非常にいい議論がなされているとは思いますが、市民さんからどう情報提供するかといった、具体策みたいなところまで議論をしていただくと非常にいい意見出る可能性があるのでは、ぜひそれをやっていただきたいです。以上です。</p>
福嶋会長	<p>はい。それは提案ということですね。何か担当者でそのへんありましたらどうぞ。</p>
伊藤副会長	<p>私4班のコーディネーターを務めています。今の上村委員の話はどこで市民とワークショップをやっても、必ず出てくる点です。行政としては情報を出しているつもりだけど、市民としては受けられていないところがあります。第3回目と第4回目で、一つの班でそこまで議論をするのは、実際には結構難しいと思っています。先ほどの日程表でいくと、中間とりまとめを出す9月は、分科会よりも全体会の時間を延ばそうとしているところですが、班単位でやるというよりも、横断的にたくさんそのような課題が出ているので、全体会の中で議論してもいいかなと思います。まだ、思い付きですが。</p>
福嶋会長	<p>市民の参加者の皆さんから情報発信が足りないっていう意見が結構出た</p>

発言者	発言内容等
事務局	<p>のかもしれませんが、もうちょっとこうしてほしいとか、もう少し具体的にここが足りないよと、こうやってないのがまずいよ、みたいなところは何かありましたか。</p> <p>5班ですが、例えばボランティアに参加したいという方はすごくたくさんいらっしゃいます。ボランティア団体の情報っていうのも確かに調べれば出てきます。ただ、そこにどれぐらいの人が求められているのか、例えば初心者でもいいのか、経験者を求めているのか、もしくは毎週参加が必要なのか、そんなことはないのかで気軽に参加してくださいとか、参加者がもっと気軽に参加しやすくなるような情報というのが欲しいという意見がまずありました。</p> <p>それから、これは若いお母さんからのご発言だったのですが、今の若い方はすごくスマホを使って調べるため、ホームページの情報はとても重要だが、いざ調べると、実は2～3年前の情報が載っていたり、今やってないものが載っていることが多く感じるという話がありました。そういったところを、改善していけば、もっと参加できる方が増えて情報も発信できていくのではないかっていう御意見もありました。以上です。</p>
福嶋会長	<p>はい、ありがとうございます。そういう具体的なものってすごく改善に役に立ちそうな気がしますね。</p>
伊藤副会長	<p>多田銀山の看板が全然設置されていなくて、本当にいい場所なのに全然わからないという意見がありました。文化財については、外から走っていてもわかりにくいという話がありました。</p>
福嶋会長	<p>この情報発信は、具体的に議論をしないといけないと思います。一般的に情報発信が足りないっていう意見は、いくら情報発信しても、関心のない人は、たとえ広報1面で、でかでかを書いてあろうと、ホームページのトップページに載せようと気づかないんですね。一般論でやっても仕方なくて、今の具体的な改善のところが出てくるとすごく前向きな議論になるのではないかなと思います。はい、ほかにはいかがでしょうか。</p>
三坂委員	<p>3班の住宅都市としての魅力向上ですが、現在私が取り組んでいるところにおいては、空き家対策も大事なのですが、現在空き家自体も増えていますし、単独高齢者がとても増えています。空き巣被害が非常に多く出ているということと、押し買い、例えば靴を買いますとか、着物売りますとかいった押し買いという被害が相当数出始めています。</p> <p>そうしたことの、要するに安全・安心対策をすることによって、住宅都市としての魅力向上につながるのではないかなと思います。</p>
福嶋会長	<p>そのへんは何か議論がありましたか。</p>
事務局	<p>3班はそういった議論まではしていませんが、次回は安全、防災や防犯の部分話を話していこうと思っています。</p>
福嶋会長	<p>押し買いて、ここにきて何か被害が伸びているっていうことがあるんでしょうか。</p>
三坂委員	<p>ものすごく増えていますね。テレビでもやっていますが、着物買いますと</p>

発言者	発言内容等
	<p>いって、実際は着物が目当てではなくて、貴金属を奪って千円おいて帰るとか、そういった高齢者は言えない被害もすごく増えていますね。それは地域の人知らないという状況もあります。</p>
福嶋会長	<p>これは一時期全国的にもものすごく広がって、私が消費者庁にいる時に、新たに制度化はしたのですが、それがあまり知られていないということですかね。それは、リコールも含めて、仕組みは一応野放しだったやつが、ある程度の規制は仕組みとしてできたのだけでも、それが生きていないということでしょうか。</p>
三坂委員	<p>いや、実際は事後対策です。未然対策として、こうすれば被害を防げるということで、やることによって、相当数被害にあわなくて済むということもありますので、そういったこともやっぱりお互い情報交換、行政と市民とか自治会と情報交換することによって被害は防げるなと思います。その結果魅力あるまちづくりになるとと思います。</p>
福嶋会長	<p>新たな制度っていうのは事後の話はなくて、事前の話で、制度はできているのですが、それがまだまだ周知されていないということであれば、やることは結構ありそうな気がしますよね。 他にありますか。</p>
城南委員	<p>具体的なっていうところで、同じような御意見があるかもしれませんが、例えば1班の改善提案シートの3ページ、1番下ですね。ここで課題点として市民の方が「市としてのイメージがよくない」、「やることが中途半端」、「自然を活かしていない」ということだが、具体的に何をもちってそう感じたのか、というところを聞いていくと、対策は取りやすいと思います。おっしゃっていることと聞いている側との、同じ言葉をやりとりしながらも、抱いているイメージが違くと打つ手がずれてくると思いますので、その一致ということも大事にしながら進めていっていただけたらなということ意見をとして申し上げます。</p>
福嶋会長	<p>はい、ありがとうございます。具体的に事例みたいなのは出てないでしょうか。</p>
事務局	<p>具体的な事例というわけではないのですが、他市と比べてですね、規模の面であるとか、PRの面とか、実際その結果来客数が中途半端な、全般的に可もなく不可もなくみたいな状況で終わってしまっているというようなことが意見としてありました。</p>
福嶋会長	<p>もう少しその辺の共通認識を作っていけたらいいですね。ほかにはいかがでしょうか。</p>
山本委員	<p>質問ですけれども、私も市民会議を見学できたならよかったのですが、ちょっと状況がわからないので御説明いただきたいです。例えばこの全体の流れとして、具体的な改善案が出てくるのが一番いいと思うのですが、最終終わった中で、やっぱりこれ必要よね、こういうところを行政にやってもらいたいよね、というまとめに対し、そうよね、で終わるのか、行政としては、今回の市民会議をどういうふうに活かしていくってところまでちゃんと市民の方々にお伝えした上で進んでいるのか、また最終出たものをど</p>

発言者	発言内容等
事務局	<p>ういうふうに活用するっていう説明はされているのでしょうか。</p> <p>おっしゃっていただいているとおり、今は市民会議のほうは発散といいまして、皆さんの意見をまずは聞いている状況でございます。そこからどんなことに具体的な取り組み・事業をしていくのかという部分がキーになってくるかと思えます。市民の方にももちろん具体的な取り組み内容なんかも考えていただこうと思っておりますが、なかなか行政で今どんな事業をしていて、それを拡充させるような内容なのか、あるいはまったく新規なのかというそのあたりを、市民の方にそこまで求めるのは、少し難しい部分はあるかなと感じています。その部分は、我々市民会議のほうに職員や政策創造課員も入っていますので、そこで少し、今の事業に繋がるような形で考え検討していきたいという思いを我々は持っています。最終的な中間取りまとめとか、最後まとめる部分を、こういうイメージですよというのを本当はお伝えしないといけないのですが、まだそこは我々も整理しきれない状況です。具体的な事業化に向けて市民会議と並行して進めていきたいなどは考えています。</p>
山本委員	<p>こういうのを希望していると言っても、じゃあすぐに来年度予算つけるというのは無理だと思いますが、せっかくこういう発表の場があっても、去年市民会議に出ていろいろ言ったけど、これってどうなっているのだろうか、とか、言ったけど結局意味ないっていうことになると、せっかく発散してもらっても意味がない。その辺、それこそ情報発信ということを含めてしっかり進めていただけたらなと思います。</p>
福嶋会長	<p>これは、まずは、今回の議論は、2次の総合戦略にどう入れるかということになると思うので、そこにちゃんと入れていくということが一つはあると思います。行政の、ここの改善シートのまとめ方だと、行政の役割ってというのは、これは2次の戦略に入れていく、全部やれるっていう意味ではないけれども、話し合っ入れていくということになりますよね。個人としてできること、地域としてできることっていうのも、この改善提案シートの柱であるのですよね。それと、2次の総合戦略との関係ってというのは、どう考えていけばいいのでしょうか。</p>
事務局	<p>最終的には今会長がおっしゃっていただいた個人、あるいは地域という部分ですけども、総合計画のほうではそれぞれの施策、もちろん行政が行っていく部分と、市民、それから市民公益活動団体、事業者というような役割で、こういうことをしていただきたいというような明記をしている部分がございます。</p> <p>今回の総合戦略でどのような形で盛り込んでいくかというのは、再度戦略素案を策定するときには、改善提案シートを活かしたような形で、検討していく必要があると考えております。</p>
福嶋会長	<p>総合計画も行政計画なので、市民はこれをします、地域はこれをします、なんてことは行政が決められませんよね。そういうことを期待するっていうのはあるかもしれないし、そういう期待していることを、やってもらえる環境づくりみたいなのはありうるし、行政としての環境づくりなのでしょうけども。総合計画がそうだとすることであれば、総合戦略も同じようなスタンスという理解でいいのでしょうか、</p>

発言者	発言内容等
事務局	この戦略は3年間の戦略になりますので、そういう部分をどう我々の戦略に盛り込むのかというのは、検討していく必要があります。総合計画と同じようにつくるといことまでは今の時点では考えていませんが、少しそこは検討させていただきたいと思います。
伊藤副会長	スケジュールの中で行くと、第5回の市民会議が議論の集約になり、ここで一定の市民会議としてのとりまとめが出てくることになるので、この市民会議としての取りまとめの主語は、市民会議になると思います。ここから推進会議や創生本部の中で、第2次総合戦略の素案ができ上がってくるので、主語が変わってきます。つまり、いろいろな提案を受けたものについて、川西市としてどういうふうに戦略に入れていくのかというような議論が10月以降になるとと思います。ここはまた詰めて考える必要はあると思いますが、今までの経験では、そうはいつでも市民会議で自分たちはこういうことをやるんだとか、地域でこういうことができるのではないかと、補足的に載せた方がいいのではないかと、個人としてできることと書いてあるのは、市民全体が拘束されることは当然ありませんが、これを議論した、100人の市民としてはこういうことをみんなで考えていきたいという形になるのではないかと、思います。
城南委員	感覚が違うなっていうのがありまして、何が違うのかといいますが、市民会議では、今は発散ですから、いろんなことを出してもらっていますよね。次の段階でそこから絞り込みですから、やることと、やらないこと、優先順位をつけて、本当に大事なことをやりましょうというふうに絞り込んでいくというイメージを持っています。だから、市民会議でせっかく意見が出たのに、あれは行政としてやらないのですかと言われたら、行政は、自信をもってそれはやりませんとか、それは後になりますとか、さらにこっちをやりますとか、そのための、総合戦略の会議だというのが私のイメージです。それと、ちょっとずれているような気がします。それともう一つは、やっぱり、権利と義務っていうのがあって、最近気になるのが、権利の主張が前に来て、義務が後ろにきているのもちょっと気になっていて、そのバランスも難しいでしょうが、とっていければなあと思います。そこはチャレンジかもしれません。
福嶋会長	発散で、これからまとめていく、優先順位をつけていく、というのは、それは、行政とか、あるいはこの場でという意味でしょうか。
城南委員	今回、第2次の総合戦略、決めていきますよね。それについて今、申し上げます。
福嶋会長	だから、今市民会議で発散しているのですよね。私は、傍聴したわけではありませんが、色んな人がどんどん言っている。それをどういう優先順位でやるのかとか、これは諦めるしかないとか、そういうことを、市民会議がやる、という理解で私はいるのです。 市民が発散したものをここでまとめて順位付けするとかっていうことは考えていなくて、市民の会議でそれを自分たちで順位づけとか、ここは諦めるとか、これは絶対やるというふうに、考えてもらうことが大事で、その視点を、採用されるかどうかは別にして、こういう視点で、こういう順位づけ、やったほうがいいのかとか、そういうことを、出していくのが、私たちかなと思います。

発言者	発言内容等
城南委員	それは大事なことです。市民の皆さんが、最初に発散したものを、基準なのか、価値観なのか、お金なのかわかりませんが、ある制約条件でもって、これはやっていきましょうとか、これはやめましょうということをして市民の皆さんが議論しあうというのはすごく大事なことです。よ。
福嶋会長	それをやると、今おっしゃった、責任と権利と義務ということも当然考えるということですよ。
城南委員	それはすごくいいチャレンジだと思います。
伊藤副会長	市民会議の5回目、9月の集約はそういう場にしていこうと思っています。ただ唯一できないのが、1班から5班まであり、1班の中でのある程度の、優先順位づけや集約はできます。当然ながら他の班と被るところが出てくると思いますが、横の整理は3回目、4回目にできる限りやっていきたいと思っています。そこは、もしかすると、例えば3班の暮らしの話が左に行っているけれども、5班の方では右の方に行っている可能性はあるのではないかと思います。そこは推進会議や行政の中での整理になってくると思いますが。
三坂委員	<p>ちょっといいですか。今、非常にいいこと言っていると感じるのですが、それだったら、声の大きい人が勝つというようなことが、やっぱりあり得ると思います。</p> <p>ということはやっぱりここは専門家の方が集まっているので、そういったことも意見を出して考えていく必要があるのではないかなと思います。市民が全部1から10までつくるのではなく、市民も作りますが、こちらでもある程度そういうことをしっかりした方がよいのではないかなと。</p>
福嶋会長	<p>ここでやらないという意味ではなくて、大事なのは市民であって、私たちは、市民の方もいますけど、外から来ていて、市民が自分たちはこれを優先していこうって決めることに、如何に私たちは役立つかということです。そのためには私たちも当然議論しなきゃ役に立たないので、こうじゃないかと思うとか、こういう視点が大事だと思うということをどんどん言っていけたらいいかなと思います。声の大きい人が勝つっていうのがほとんどないというのが無作為抽出の、良いところではないかなと思っています。</p> <p>最後決めるのは市長ですから。市民がこういう順番を考えただけ、私は違うと思うということは市長が判断することであり、それがいいかどうかはまた市民全体が判断するでしょう。無作為抽出の市民が市民の代表ではないと思います。市民から選挙で選ばれている市長が、最後は判断するということが、その前にやっぱり市民が議論してみるっていうのがすごくいいかなと思っています。</p>
上村委員	市民が決めるっていうのは、そのとおりだと思っています。そうすると、こちらである程度適切な情報提供ができるような、材料をきっちり用意することがすごく大事なかなと思っています。私の専門が財政で、お金の話かと思われるかもしれませんが、やはり例えば、新規事業立ち上げということになると、これだけお金がかかるという情報はある程度出していかないといけないと思います。これだけ市民負担がありますよ、という客観的な情報を出さないといけないと思います。そこは、事務局側のご負担になるかもし

発言者	発言内容等
福嶋会長	<p>れませんが、もしかすると大きい事業が立ち上がるようなことがあるとすれば、そのコスト情報ぐらいは出さないといけないのではないかというような思いがあります。</p> <p>そのへんは私たちが気づいて、ここのコストを示した方がいいですよということが言えるだろうし、市民会議に各担当の職員の人たちが参加するようですから、当然そこでもそういう話はしてもらえenと思います。私たちが大きな視点から、これはちょっと財政的にどうかとか、こうなるのではないかというものは、言えるものはどんどん言ったらいいと思います。</p>
山本委員	<p>今回は100名近くの方が集まって、その意見が出ていますが、通常、市役所のほうにも、御意見が寄せられると思います。客観的な意見の場合もあれば、クレームのような偏りがあるものもあるかもしれませんが、ここで出てきていないそういった日常の意見の吸い上げも集めて、ここに提示する必要性を感じています。どこかの班で、そういったクレームが何%ぐらいとかっていうのもありましたけれども、子育てや文化のところで、そういったものが普段から積み上げて情報収集、やはり、データとして蓄積されているのかっていうのをお聞きしたいです。</p>
事務局	<p>各所属で、苦情といったものは出てきています。道路関係とか、そういったところは日常的に苦情や要望を聞きますので、そういった部分はデータ化しています。おっしゃっていただいたその部分をここに出すということですが、全てが全て出すのが本当はいいかと思いますが、まず一つ目には市民会議のほうに、職員がまずそれぞれ入っています。その職員は、このテーマごとの専門ではありません。そのため、コーディネーターの方、あるいはナビゲーターという専門知識の情報提供をしていただける方のリクエストがあった際には、担当課の所属長または担当者と呼ぶようにしています。そのあたりでこういう話が出ています、こういう要望が出ていますという実態をお話できると思います。それから、最終的には創生本部ということで、各所属の部長級の会議も想定しておりますので、そういうときには皆さん方からいただいた意見を見た中で、意見などを話にできるような状況にしていきたいと思います。</p>
山本委員	<p>例えば、学校給食の話はもう今具体的に動いていて、いつ実現するかというのがわかっていますが、そういったものが、今までどれぐらいの数があった、どれぐらいの数があったものが、例えば議員さんや職員の方が問題意識を持ったことで実現に向かったような流れが、市民としてわかりにくいと思います。具体的な例え話になりますが、私も子育て中ですが、学童保育のことが全然出ていませんでした。北陵地域ですと、夏休みに学童保育が朝8時半に開いて、18時半に閉まります。だから、8時半に預けてから、9時に出勤できる職場はあるのかといった話がありました。私はそういった意見を直接市の子育て支援課にお電話させていただいたことがあって、そういった意見は他にあるかと聞いたところ、よくそういったお問い合わせもいただきますと職員の方は言っていました。今回市民会議で選ばれた方の中にはそういった問題意識を持っている方がたまたまいらっしゃらなくて、そういった意見も出なかったということですね。もしここに、私がいなかったらそういった意見も出ないまま、総合戦略がつけられる。もしかしたらそういった重要な議題がどこかに埋もれているかもしれない。もしかしたら個別に御連絡している方もいるかもしれないなと思います。そういう市民会議でも出てこない</p>

発言者	発言内容等
	<p>が、日常で市民が意識していることが漏れてしまわないかなという懸念だけがありますが、その吸い上げ方はどうするのでしょうか。</p>
福嶋会長	<p>パブリックコメントを最後にやりますが、本当はもうちょっと長くパブリックコメントをやったり、最初にパブリックコメントやってみたりといった方法もあるかもしれませんが、今からというのは無理かもしれないですね。</p>
事務局	<p>我々も今、市民会議で議論している内容、あるいは推進会議で議論されている内容を、部会といいまして、このメンバーとは別で、20人ほどグループ作っていますので、そのグループでも議論はしていきます。もちろん職員という目線があり、いろんな情報はおそらく共有していると思うので、そこでまず出るのはと思っています。もしそこで出なければ、庁舎内でも我々の行っているものの発信や、それに対する意見というのは、御意見なんかも参考にしながら、もう少し方法は考えてみたいと思います。</p>
福嶋会長	<p>山元委員が言っているのは、市民から見たときの問題が大事で、学童保育が8時半という件も、別に全然職員を悪くいう意味では全くないですが、職員だとやはり行政としてこれは無理だということで終わる可能性が非常に高いと思います。体制を考えて、できないからじゃあこれは無理だとなってしまうけれど、市民にとってはこれをやらしてもらえないと意味がないというものがあるって、その意見をベースにどれだけできるかという話だとお聞きしていて思ったのですが。</p>
山本委員	<p>そうですね。部会だと、それこそそういったことが出てきて、予算とかもあるし、絶対無理だろうとか、今これを言ったら自分の立場が...ということもあり、クレームや要望や意見を全部出せる風土なのかっていうのが私にはわかりません。職員の対応に対するクレームかっていうのもあるかもしれないので、それを出すことに対する、自分の不利益みたいなものがあるから、全部出にくいかもしれないですが、そういった、日々の市民の意見が、日常的に吸い上げられるというか、表に出るような、仕組みがあればいいなと思っています。</p>
伊藤副会長	<p>これは理屈はないですが、私が無作為抽出の人たちの場にコーディネーターでずっと参加していて気を付けているのは、まだこれは1回目の議論なので、1回で当然全部の論点は出尽くしているわけではありません。5回目までやってその中で、どうするのかということを考えます。やはり皆さん自分の考えだけでは、本当に大丈夫かなと思う方もいるので、多くの人たちが、周辺の人に聞いたりしているようで、4回目、5回目が終わると、ある程度の論点が出てくるなという気がしています。</p> <p>もちろんその出た論点全部が今回の総合戦略に入ってくるわけではないと思いますが、少なくとも例えば学童については、今日山本委員がいるから顕在化したもので、何かしら次の市民会議でフィードバックされると思います。これは、システムが完璧に出来上がっているわけではないですが、これが結構無作為のおもしろいところだと思っています。無作為は多様で世代や所属もいろいろだという状況が、今みたいな声もちゃんと最終的には出てくる特徴ではないかと感じております。</p>
福嶋会長	<p>ちょっと話が逸れますが、新婚世帯家賃補助とありますが、結婚したら、大抵どっかに住みますよね。この補助があるから結婚しましたっていう人は</p>

発言者	発言内容等
	<p>ほとんどいないんじゃないかなという気がします。こういうお金を使うよりは、学童保育、始まる時間は早くしたほうが、100人中99人はそっちがいいという可能性はありますよね。</p> <p>先ほど少し出ていましたが、学校給食はセンターを作るということで、これは変更できないんですか。もう走っている事業なのでしょうか。</p>
事務局	はい、こちらのほうはセンター方式ということで動いています。
福嶋会長	どこまで動いているんですか。
事務局	P F Iの事業等をするのですが、事業者募集に向けた準備が整ってきている段階です。
福嶋会長	事業者募集の準備が整っているくらいであれば、まだ募集してないので変えることはいくらでもできますよね。市長が変わったんだし、今から自校でやるっていう方針に変えられそうな気がします。
事務局	市議会のほうに、中学給食をセンター方式でつくるということを今の市長が表明をして、その準備の予算を計上して議決をもらって進めている最中です。全く変更ができないということではありませんが、方向性は示して議論して、市民にもお知らせして動いていますので、そういう意味ではちょっと難しいかなと思います。
福嶋会長	<p>市長が自分も表明されたということなんですね。せっかく遅くやるのに、センター方式かよという気が私はしますけどね。せっかく他より遅くやるんだから、自校方式で地産地消でいいものつくったらいかがですかねって思いますけどね。今そういうことを提案して、意味があるのかどうかちょっともう少し、状況お聞きできたらと思います。</p> <p>ほかにありませんか。</p>
片山委員	こうやって市民の議論が行われて。予算取りがされて、進んでいく中で、凄く根本的に不安になったのが、先般、国保の申請ミスで、大きな赤字が出てしまって、いち市民としてもすごく驚きました。今回この予算取りに対しては、影響はないのでしょうか。市民会議でそういうお話が出たのかお聞きしたいです。
事務局	市民会議ではそういった話は出ておりません。国保での損失、歳入が不足になってしまった点について、ここで何か影響を与えとかそういったことはございません。
城南委員	与えられた課題、命題のひとつに、3年間の計画であることと、5年から10年先の姿を見据えて作り上げていくといったことがあると思います。5年から10年先にどんなあるべき姿を見るのか、同じようにイメージできるか、共有できるか、議論していけたらと思います。それによって施策が絞られたり、色々なアイデアが生まれたりしてくると思います。
福嶋会長	すごく大切なことですよね。これから市民会議でそういったことが議論されていきますか。

発言者	発言内容等
伊藤副会長	<p>一つの考え方としては、ビジョン共有があって、それに基づいて何をやるかという考え方で議論したほうがいいのではないかと、という思いはあります。しかし、普段生活している人達に、ビジョンはどうですかと言っても話がしにくいと思います。それよりも、日常的な生活でどう感じているかということ拾い上げていき、そういうものが出てくると、この先の川西市で、何をもちて住みやすいというのかというのが見えてくるのではないかと考え、普段進めています。</p> <p>ですので、行ったり来たりとなってくるところがあり、ビジョンが明確になるかいうと、今回5班体制での大人数でやっていることもあり、自信はないですが、少なくともそういった議論も班ごとにやっていきたいと思いません。</p>
上村委員	5班体制は通常より多いのですか。
伊藤副会長	過去最高です。
上村委員	だとすると、5班の全体的なベクトルをどうやって合わせていくかが大切になりますね。
福嶋会長	引き続き、市民会議の5つのテーマについて、続いて自由に議論していけたらと思います。
三坂委員	<p>埋もれてもらっては困る意見だけ先に言わせていただきます。空き家対策の話ですが、空き家だけでなく、空き地も現在深刻な問題となっています。また、所有者不明土地問題も非常に重要な問題になっています。私はNPO兵庫空き家相談センターと個人で、国土交通省の事業で、先駆的な空き地対策事業、それと所有者不明土地の対策事業を行っています。せっかく川西市で行っているのも、もっと市民の方に生かしていければいいなというのは考えています。川西市においては空き地の対策部門がないので、作っていただいて、やっぱり先駆的に全国に発信できるような川西市であって欲しいなという要望もあります。</p>
伊藤副会長	<p>4班の文化・歴史の活かし方のコーディネーターを務めています。若干意外に思ったところは、外から川西のことを調べてみたら、清和源氏発祥の地である、三ツ矢サイダーの発祥の地である、といった先にどんな面白いことがあるのだろうと感じていたんですが、2回目の議論の中で、皆さん知ってはいるが、その先をあまり感じていないことがわかりました。</p> <p>ただ、2回目は20人ぐらいで話をしていると、案外これは重要なことではないかという雰囲気になり、ではどうやって活かしていくかという話が第3回目になります。例えば清和源氏発祥の地である多田神社で、源氏まつりをやっていること自体も、源氏まつりは地域の祭だと思っている人が20人中でも多かった。これは川西全体としての雰囲気なのでしょうか。</p>
片山委員	源氏まつりに行ったことがないです。誰が主催かもわからない。単に私が興味をもっていないということもありますが。
山本委員	地域のお祭りであれば、何の祭りとなるのですか
伊藤副会長	位置づけは川西市全体の祭りとなっています。

発言者	発言内容等
福嶋会長	主催はどこですか。
伊藤副会長	実行委員会です。
片山委員	実行委員会は川西市内の商工会や青年部ですよ。
伊藤副会長	そうですね。実際、行列の演者の多くは多田地区の人たちとなるので、地域のまつりと思われることが多いようです。
城南社長	<p>去年の5月から観光協会の会長やっております、それまでは多田神社の宮司さんがずっと20年やっておられて、ちょうど世代交代ということで、去年からやっています。</p> <p>源氏まつりは、やっている側は全体の祭りとして当然注目も浴びたいし、本当にもっと人が集まるようなお祭りしていきたいのですが、川西能勢口駅より南側の方はあまり関心がない。駅より北側の特に多田や平野や畦野がエリアとなっています。川西市の祭りにするのであれば、川西能勢口駅から多田神社までの行列にするとかなりインパクトが出るのですが、実際に馬を5頭、6頭歩かせるため、馬が起こすだろう暴走であったり、蹴られたり、とかの事故について、警察が非常にナーバスになっています。今やっているのは、能勢電鉄の多田駅と多田神社の間を往復する程度になっています。</p> <p>その道は狭隘で、人が何重にも見ることができず、そういう意味では本当にそこにたくさんの人を呼ぶのか、どうするかといったことが課題としてあります。そういう目で源氏まつりを見直した時に、今感じるのは、非常に中途半端なこと。行列の最初の方は観光プリンセスに選ばれた静御前とかが行列し、最後の方は子どもさんが稚児の格好をして歩きます、その横に、保護者が一緒に歩きます。その保護者はドレスコードがないので普通の服装で歩かれるわけです。すると興ざめしてしまうのです。最初の方はすごくまとまったまつりですが、最後の方はなんかぞろぞろと歩く。まずそこを改めませんかと提案しております、法被を用意して、例えばトレーニングウェアやスニーカーを禁止にして、ドレスコードを守って徐々に祭りとしての格を上げていく。イメージとしては、地域の祭りとしてインパクトがある祭りにして、それから世界を狙いにいけばいいと思っています。</p> <p>人を呼び込むのは大事で、最終的にはそこは狙いますが、まずは地域でこの祭りがあるから、今日帰ってきましたというような、岸和田のだんじり祭りのような、すごいまつりになれば、面白いかなという気はしています。</p> <p>またそうなるように持っていきたいと思っております。</p>
伊藤副会長	<p>結構同ような話がたくさん出ていて、まつりの部分だけではなく、清和源氏や多田神社はみんな知っているが、盛り上がっているのは地域だけといった言い方をされている方が多いです。例えば、三ツ矢サイダーの「三ツ矢」の名前は元々満仲が矢を放ったのがスタートという話自体も、知っている方が3割ぐらいでした。</p> <p>だんだんそういった話が繋がってくると、ストーリーを作ったらおもしろいのではないかといった雰囲気になりました。しかし、だからといって、いきなり観光資源に使おうということよりも、まずは市民がそういうことをちゃんと知って面白いと思わないと、ダメだという話が出ており、そこまでが前回の話です。</p>

発言者	発言内容等
城南委員	<p>それを知ったら誇りを持てるし、愛着もわいてきますので、それこそ地域コミュニティが繋がっていきます。非常に大事な視点だと思います。</p>
福嶋会長	<p>わりと人をどう呼ぶかみたいなのところに発想がいたりすることが多いですが、今言われたように、本当に地域の人が自分のものにしていく。源氏から今の私たちが何を学んで、どう今のまちづくりや自分たちの生き方に生かしていくのかということが大事だと思います。</p> <p>観光資源で面白いので人集めようということではなく、源氏が提起したものを私たちは今の社会にどう活かすのかといったところを考えて、日頃からその地域に行くと源氏を感じるようになれば、本物になる気がしますね。</p>
城南委員	<p>初めて観光客が来たときに、まち全体がその空気ですから、すごい満足度が高くなるんですね。今呼び込んでも、地域も一部の人しか盛り上がりおらず、何それってことになる。せっかく来たのに、すごくギャップが出てしまいます。そこで作り込んでいけないといけないと思っています。</p>
山本委員	<p>子どもを稚児に参加させたことがあるが、私は普段着で参加した。確かにその時この行列にいていいかとは感じた。親の満足ではあるが、結構、子どもをあ衣装を着せるとかわいくて、参加させた。稚児さんは小4までは市内であれば参加でき、それより上の高学年の子どもの衣装もかっこいいのですが、高学年は地域の子ども会等から参加させていて、あまり外部から参加できるような状態ではない。巻き込もうとしているのか、排他的なのかわからない。高学年や、大人でもハロウィンではないですが、仮装したい人もいるかと思うので参加できるようにしてもよいのではないかと。地域を固めて盛り上げていくためにはそれもひとつですし、もしかしたら市内の端々の方で、源氏を感じるまでにはいかないが、仮装面白いぐらいの人たちが点在していれば、その人達をまきこんで、広げていくのもひとつかなと思う。</p> <p>コアから広げるじゃなくて、面白そうといったところから、敷居を低くしてもいいのかなと思います。</p>
福嶋会長	<p>コアをちゃんと作るっていうのは、面白いとか、ちょっと面白半分で作ってみるとかっていう人達を除くということとは別で、むしろ一致する話のように私は思います。コアがしっかりすればするほど、敷居を低くしているんなもの、例えば面白半分の人惹きつけていく気がします。あんまり排他的になると駄目ですが。</p>
山本委員	<p>文化の班で、西野さんの話ですが、以前満願寺でイベントがあったと思います。友達に西野さんのファンがおり、羨ましがられたので、行きました。市民ですが、興味はなくてもないが、いままできっかけがなく、はじめて満願寺に行きました。連休最終日ですごい行列で何千人も来ていました。確かに地道な取り組みも必要だが、芸能人の力はすごいと感じた。</p> <p>川西公民館にできた、古田さんの記念館もアピールしたいのか、したくないのかわからない規模で、ひっそりとしている。売りにしたいと思いつつも、見ても3分ぐらいで終わる規模なので、この辺はうまく活用する方法はあるかとおもう。</p>
城南委員	<p>自治会に入るか入らないとか、といった話がありますが、そもそも何のために自治会があるか、自治会がある存在の意義で、なかったらどうなるのか</p>

発言者	発言内容等
	<p>といった情報提供をする必要があると思います。市民の方々に、だから自治会って必要なものなんだという、そういうのもあっていいじゃないかなと思うんですけど。</p> <p>現状としては自治会に入らないとか、自治会の加入率が減っているとか高齢者ばかりがいるとかっていう現象はありますが、そもそも何のために自治会ってあるのっていうところをやっぱり伝えないと、それならなくてもいいのではないかな等、そんな変な方に行くと思ふという気がしているんですけど。</p>
福嶋会長	<p>そういう議論は、今のところ市民会議で話されておりますか。</p>
事務局	<p>まだ議論といった形ではありませんが、自治会に入って、皆で関わるのが良いと思われている方もいれば、一方で必要かどうかわからないといった二つの意見がでていました。次回以降あり方等が、出てくるのかもかもしれませんが、現時点では議論されていません。</p>
福嶋会長	<p>ごみや防犯とか最低限のことだけをちゃんとやる自治会にする。余分なこと、お祭りだとか煩わしいなという意見と、いろんな楽しみも自治会を含めてっていう意見があり、自治会も大きくいえば二つの方向があるような気もします。だから行政が必要さを説くというの、自治会は住民のものなので、行政が必要さを説くというよりは、自治会をやっている人の話を聞いてみることもありかなと思うのですが、</p>
城南委員	<p>例えば、川西市として非常に自治会が活性化しているような市を、求めているのか、必要最小限の活動だけで良い市を求めているのかとか、その辺は、バラバラでいいのでしょうか。</p>
福嶋会長	<p>バラバラがいいと思います。</p> <p>市は自治会がこうあるべきだと言って、みんながそれに従って自治会があるなんて、私は気持ち悪いし、そういった市には住みたくないと思う。自治会は地域の人たちのものだから、地域の人たちでお祭りいっぱいやるっていう人達がいる自治会もあれば、なんかあまり面倒くさいからやりたくないから、でも最低限は困らないように、ごみだけやるという自治会もあり、それは多様性があつた方が良くというのが私の意見です</p>
伊藤副会長	<p>次回、3班のナビゲーターとして来てもらう方が広島県の三原市の自主防災組織の会長です。自治会をいくつか束ねているところの会長で、防災の視点で自治会が必要というよりは、地域の繋がりは必要だということを実践されている方にきていただきます。三原市は去年豪雨災害で死亡者が10人くらい出たところです。毎日の「素振り」(準備)によって変わるんだなと思ったのが、自治会が地域の防災訓練を本格的にしているところとそうでないところでは被害の差が明確に出ました。今回その話もしていただくということでお呼びをしているので、そういう話になってくると思います。</p>
福嶋会長	<p>自治会の議論を、また他の班にも共有するといろんな化学反応が起こりそうな気がしますね。</p> <p>あとはいかがでしょうか。はい、どうぞ。</p>
山本委員	<p>自治会にも関係する話ですが、自治会に入りたくない理由は、役が回って</p>

発言者	発言内容等
	<p>きたら大変ということだと思います。意義や大切さは分かるけども、実際自分が役員になると大変だと思います。</p> <p>通常、PTAと呼ばれるのは役員を指しますけれども、入学すると同時に保護者が会員になっています。それをなくしていこうとする動きがあるようなのですが、川西市でもその議論は別で動いているんでしょうか。隣の猪名川町ではPTAは拳手制になって、会員自体がごっそり減って、役員を選ぶ母数が減っているところもあるようです。</p> <p>今私が投げかけたものの、どうしていいかという答えは出ていません。市民が考えることもあるし、高齢者で、自治会の役員になっても難しい今の制度のハード面を考えていく必要が出てきていると感じています。</p>
福嶋会長	問題提起の一つですよ。
伊藤副会長	<p>私はその班ではないので、この場で言うのがいいのかわかりませんが、今までの会議の議論でも同じように、「役員はやらないけど、自治会に入らないということではない」という方が結構いました。その時に「ライト自治会」を作れないかと意見が出たんです。役員が回ってこない代わりに若干自治会費を上げるという仕組みの話が、無作為の人たちから出てきました。行政がその仕組みを作るといのは違和感があるので、やっぱり自分の住んでいる自治会でやってみようという動きが出ていました。結局上手くはいきませんでした。</p>
福嶋会長	<p>今自治会の班長ですが、立场上断ることもできないけど、自治会費が倍で班長回ってこないならその方がいいよね。行政としてどんなサポートがあるのか、ありえないのかっていうのを議論してみてもいいかもしれません。</p>
城南委員	<p>川西市であれば、非常にうまくいっている自治会があります。そういうところのモデル紹介、事例紹介をしてもらったらヒントがたくさんあるかもしれませんね。グリーンハイツの自治会がありますね。ああいうところを事例紹介してもらったら、こうしたらうまくいくのかっていうのがあるかもしれません。</p>
福嶋会長	<p>ちょっとその事例紹介がどんな中身かももちろん私知っているわけではありませんが、事例紹介で一生懸命いろんな活動している自治会の事例紹介は多いですが、手抜きしてうまくやっている事例紹介もぜひあったら、喜ぶんじゃないかなと。両タイプってということではないですけども。</p> <p>あとはどうでしょうか。ちょっとさっき気になりましたが、学校給食センターはPFIということでしたよね。PFIでというのは、具体的には何か特徴があるんでしょうか。</p>
事務局	<p>ある程度基本であらなければならぬという部分の仕様を示し、かつ事業提案というかプラスアルファで、こういうことも考えますよといったことを募集条件の中で考えていただきます。その面でより効率的というか、効果的な、同じ金額の範囲内で効果的な事業を提案していただくことになります。</p>
福嶋会長	<p>PFIで自校方式をやるともっと豊かな提案が出てくるような気がしますが、それはまたにしときます。</p>

発言者	発言内容等
上村委員	<p>市民会議で今、発散・提案をしているってことなのでいろんなご意見が出てくると思います。おそらく何かを作る意見というのは結構出ると思うんですけど、スクラップする意見もぜひ欲しいです。要はやっているけど、これいらないんじゃないのっていうものを、出していただくと私は行革の意味で結構参考になります。</p>
福嶋会長	<p>さっきも話した新婚家庭の家賃補助は何の意味もないかなって思います。</p>
上村委員	<p>意思決定はどこに効いているかはすごく大切なところで、要はあったから使う、あったから来たんだっていいのはいいですが、ついでにこれ使いたいねってのはあまり意味ないですよ。だからそういったラッキーなその意思決定はどこまで効いているのかはすごく大事だと思います。</p>
伊藤副会長	<p>さすがに1個1個の事業を見て議論という状況はできてないところはあります。ただ、今みたいな子育ての中で、何をしていますかという質問は出ますし、その中で家賃補助等いろんな話が出て、いやそれよりも、例えば学童の時間を早めにする方がいいのではないかといった雰囲気の話はよく出てくるので、それが最後の提案の中に盛り込まれて、事業点検の中で、上手く繋げていくということかなと思います。</p>
上村委員	<p>例えばリソースは結構限られているから、作る作るの話だとするとやっぱりどうしても行政がパンパンになってしまいます。だから、ある程度その地域としてできること、個人としてできることという枠を作って、行政の役割を縮小してもこっちに移っているよねって議論が多分あると思います。行政も全部は抱えることできないので、そこを意識していただきたいですね。</p>
伊藤委員	<p>考え方のところでいうと、ある程度、コーディネーターが、あれもこれもということにはならないように進めるようにしています。</p>
上村委員	<p>そうですね。見学してみるとそんな感じがしました。</p>
福嶋会長	<p>改めてこの会議からの提起ということでそういう視点もお話できたらいいかなと思います。</p> <p>最初に話したんですが、生きがいと地域交流の推進って、これは、推進ってというのは、生きがいにもかかっているんですかね。「生きがい」と「地域交流の推進」なのか、「生きがいの推進・地域交流の推進」なんですか。これって名前を今からは変えられないのでしょうか。生きがいの推進って、何か清く正しい生きがいがいいなというのを、行政の会議でやるのはどうかと思います。ボランティアが生きがいの人ももちろんいますが、ボランティアも楽しいけどボランティアの活動で出会うイケメンの男性と会うのが生きがいというのも別にいいじゃないですか。或いは、ボランティアの会議とか、地域の会議ですごく綺麗な女性に来ていて会うのが生きがいだというのもいいし、中には市役所にクレームというのが生きがいみたいな人も現実にはいるじゃないですか。問題解決すると生きがいをなくしちゃうかなって思うような人って実際いますよね。それはそれで生きがいってみんなそれぞれなので、清く正しい生きがいっていいのではないと思います。あまり生きがいを大上段に構えちゃうと、どうなんですか。市民会議のメモ見ても、生きがいについてご説明が最後にありましたよね。</p>

発言者	発言内容等
事務局	<p>そうですね、生きがいていうのは個人の方によって違うので、個人個人が生きがいを感じられるような地域交流の取組みや推進を考えていければいいねという話がありました。</p>
福嶋会長	<p>地域交流で生きがいを感じる人もいるし、家に帰って1人の空間になって、そこで生きがいを感じる人もいるし、それは本当に様々だと思います。いい悪いという話ではないし、テーマを直せないのかなという気はします。</p>
城南委員	<p>コーディネーターの総括が1ページにありますが、これを読むと、班で考えるのは地域活動というものを生きがいを持ってやれるような、そういう社会地域づくりを考えていきたいと総括されていますね。</p>
福嶋会長	<p>その総括に従うと地域活動みたいなテーマでもいいのかと思います。地域活動で生きがいを感じないといけないう意味ではないじゃないですか。一応意見です。 あとはよろしいでしょうか。</p> <p>続いて、その他として10分ございますが、よろしいでしょうか。事務局から何かありますか。</p> <p>それではこれで議論は終わります。事務局にマイクを戻します。</p>
事務局	<p>皆様、どうもありがとうございました。 次回の第3回かわにし創生総合戦略推進会議は8月9日(金)13時30分からを予定しております。議事等詳細が決まり次第、皆様にご連絡差し上げます。 それでは、本日の会議は終了とさせていただきます。 本日は誠にありがとうございました。</p>

+